

地方都市視察報告書

福祉健康委員会

1 実施日

平成25年10月24日（木）

2 視察地 愛知県小牧市

【市の概要】

(1)面積 62.82km²

(2)人口・世帯数（平成25年10月1日現在）

人口 153,574人

世帯数 63,566世帯

(3) 小牧市は、名古屋市の北方約15キロメートル、濃尾平野のほぼ中心に位置している。

昭和34年（1959年）、に未曾有の被害をもたらした伊勢湾台風による復興を契機に、農業依存からの転換と財政基盤の確立のため、積極的な工場誘致と大型団地の誘致を図ってきた。高度経済成長期に入ると、中部の空の玄関名古屋空港、さらには名神高速道路・東名高速道路・中央自動車道の3大ハイウェイの結節点という立地条件にも恵まれ「小牧菜どころ米どころ」といわれたかつての田園都市から、陸上交通要衝都市の性格を有する内陸工業都市へと大きく変貌し、中部の中核都市へと発展している。平成13年（2001年）には名古屋都心部と小牧インターチェンジを直結する名古屋高速道路高速11号小牧線が開通し、陸上交通要衝としての地位をさらに確固たるものとした。

一方、春の桜、夏の深緑、秋の紅葉、そして冬の雪化粧と、四季折々にその姿を変え、市民に憩いと安らぎを与えてくれる市のシンボル小牧山は、永禄6年（1563年）天下統一を目指す織田信長がここに築城して戦国の風雲の中に登場した。「本能寺の変」のあと、豊臣秀吉が徳川家康と小牧山をめぐる攻防戦を展開した「小牧・長久手の合戦」で歴史にその名をとどめており、昭和2年（1927年）には国の史跡指定を受けた。さらに、天下の珍祭で知られる田縣神社の豊年祭、ゴッホ、ピカソをはじめ、横山大観、岸田劉生ら内外の高名な画家の作品収蔵で知られるメナード美術館など、古い歴史と豊かな文化の街でもある。

3 視察項目・内容

認知症地域資源活用モデル事業



4 視察参加者

【委員】

小松政子委員長 あざみ民栄副委員長 北島敏昭委員
鈴木ひろみ委員 豊島あつし委員 吉住はるお委員
ひやま真一委員 近藤なつ子委員

【随行】

議会事務局議事係 佐藤勇治 佐藤公彦

5 視察結果・所感

小牧市では、認知症の人とその家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、ネットワークを構築し、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指している。平成 22 年度に愛知県の「地域資源活用モデル事業」の指定を受けて、市内の 3 地区をモデル地区として選定し、認知症への理解を深め、地域全体で見守っていくネットワークを構築するため、介護事業所や医療機関等の地域資源の活用方法や支援方法を盛り込んだ「地域資源マップ」の作成、徘徊模擬搜索訓練、認知症サポーター養成講座等の特色ある事業を実施してきた。なかでも「中学生に対する校内での認知症サポーター養成講座の開催」については、当区も学ぶ点が多くあった。

徘徊模擬搜索訓練は、様々な地域資源（行政はもとより、地域、消防、警察、商店等）を活用して、定期的に継続して実施され、認知症を広く一般へ、現場目線で積極的に周知、啓発を深めている姿勢が印象に残った。近年、発展してきた都市部と旧来からの農村部を併せ持つ小牧市の地域特性を踏まえた取組みの効果の差や、現状の課題などの詳細をきくことができ、今後の高齢者施策を進める上で、とても有意義であった。

6 主な質疑項目

- (1) 徘徊模擬搜索訓練の実施状況について
- (2) 徘徊探索見守りネットワークについて
- (3) 認知症高齢者の増加に伴う今後の取り組みについて
- (4) 中学生の認知症サポーター養成講座について
- (5) キャラバン・メイト^{*注}を集め養成する具体策について

*注 認知症を正しく理解し、認知症の方や家族を温かく見守る応援者（認知症サポーター）を養成する講座の講師



小牧市

7 その他

【共同視察者】福祉部高齢者福祉課長 齋藤正之